

そして其の地球の運動には二つの種類がある。

其の一つは地球が地軸を軸として、丁度獨樂が其の心棒の周圍を廻轉する様に、西から東に廻轉する運動である。

地球が此の地軸を軸として廻轉するのを自轉と云ひ、一回轉するのに一日を要する。

晝夜の別は此の自轉の際、太陽に向ふ面と否らざる面とが出来事から起るのである。

何分大きな地球が僅か二十四時間足らずで一廻轉するのであるから、其の速さは實に恐ろしい程で、赤道では一秒間の速度が四六四米に達し、次第に南北に進むに伴って速度は減するが、夫れでも北緯三十度（我が薩南諸島の南部を通る緯度）でも四〇二米、同四十五度（北海道の北部を通ずる緯度）の所でも三二八米に達するから、我が日本内地では何處でも其の間の速度で日夜不斷に動いて居る譯けである。

所が夫れにも拘らず **我等が夫れを感じない譯け** は？

地球上の凡ての物が同様の速さで動いて居るからである。

丁度吾等が汽車に乗つて窓外を望む時、野も山も森も林も皆一樣に後方へ駆け出す様に見えるのと同様に、吾等は地球と共に廻轉するので、却つて太陽や月の様な他の天體が東から西へ移動する様

に見えるのである。

さて地球は一日即ち二十四時間で一廻轉するから、地球上の地點は此の間に一圓周、即ち三百六十度をめぐる勘定になる。

すると **一時間に廻る度数** は？

$$\frac{360 \text{度}}{24} = 15 \text{度}$$

そこで經度十五度を隔てた甲の地點と乙の地點の間には、時間に一時間の違ひが出来事になる。

そして其の違ひも地球は西から東に廻轉するのであるから、東にある地點が西にある地點よりも夜の明けるのも早く、随つて時間も亦早い事になる。

例へば東京とグリニチとを較べると、東京はグリニチよりも東へ經度が百三十九度も隔つて居るから、時間は彼に比して九時間餘りも早い譯けで、即ち東京の午前九時はグリニチでは午前零時頃に當るのである。

斯の様に各地方の時刻は地球上經度が異なるに伴って各地で夫々違ふから、今日の如き交通の便利な時代にあつては不便な事が少くない。殊に我が國の如く國土が東西幾經度にも亘る所では、東西の兩端では夫々時間が著しく違ふので、汽車の時間表を一つ定める事も容易でない。

されば此の不便を除く爲めに、便宜上或る經線上の時刻を以て一國又は一地方の標準時間と定めるのが普通で、

現に我が國の如きは東經百三十五度の地方時によるものと、東經百二十度の地方時によるものとの二つの標準時を定め、前者は中央標準時と稱して朝鮮及び沖繩諸島以東で之を用ひ、後者は西部標準時と稱して先島諸島から西の方、即ち臺灣・關東州・南滿鐵道沿線等で用ひる事にして居る。

兎も角右の様に地球上經度十五度を隔てる毎に一時間宛の差が出来るのであるから、此の勘定で行くと處によつては二十四時間、即ち滿一日の違ひが表はれる事になる。

随つて若し此の儘にして置くとすれば、同じ地球の表面で日附が一日違ふと云ふ様な不便が起つて来る。

されば此の不便をなくする爲めに列國は申し合せて、大體百八十度の經線を境として、西から東に之を越えたものは前日と同じ日附にし、東から西に越えたものは翌日と同じ日附にして、日附を揃へる事に定めて居る。

此の境になる線が即ち日附變更線と稱せられるもので、此の線が大體百八十度の經線としたのは、此の線が大體太平洋上を通つて居て、陸地を通る處が少ないからである。

さて以上は地球の自轉と其の結果として起る現象であるが、更に地球は之とは別に大體定まつた道を通つて、太陽の廻りを東の方向に一周する運動を行ふのである。

地球の此の運動を公轉と云ひ、太陽の廻りを一周するには一年を要する。

四季の別は地球が傾いて居るのと、其の傾いた儘太陽のまほりを運行する事の結果から生ずるのである。

即ち地球が廻轉して春分(三月二十一日頃)の點に來ると、地球上では到る處晝夜の長さが平分されるけれ共、更に廻轉して夏至(六月二十日頃)の點に來ると、地軸が傾いて居る結果太陽は北上して北半球では晝が長くなり、殊に北極圏内では此の前後毎日晝計りとなる。

次いで地球が更に廻轉して秋分點(九月二十三日頃)に來れば、又前の如く晝夜が平分し、進んで冬至(十二月二十一日頃)の點に來ると夏至とは全く反對に、太陽は南に歸つて北半球では夜が長くなり、北極圏内では此の前後毎日夜ばかりとなる。

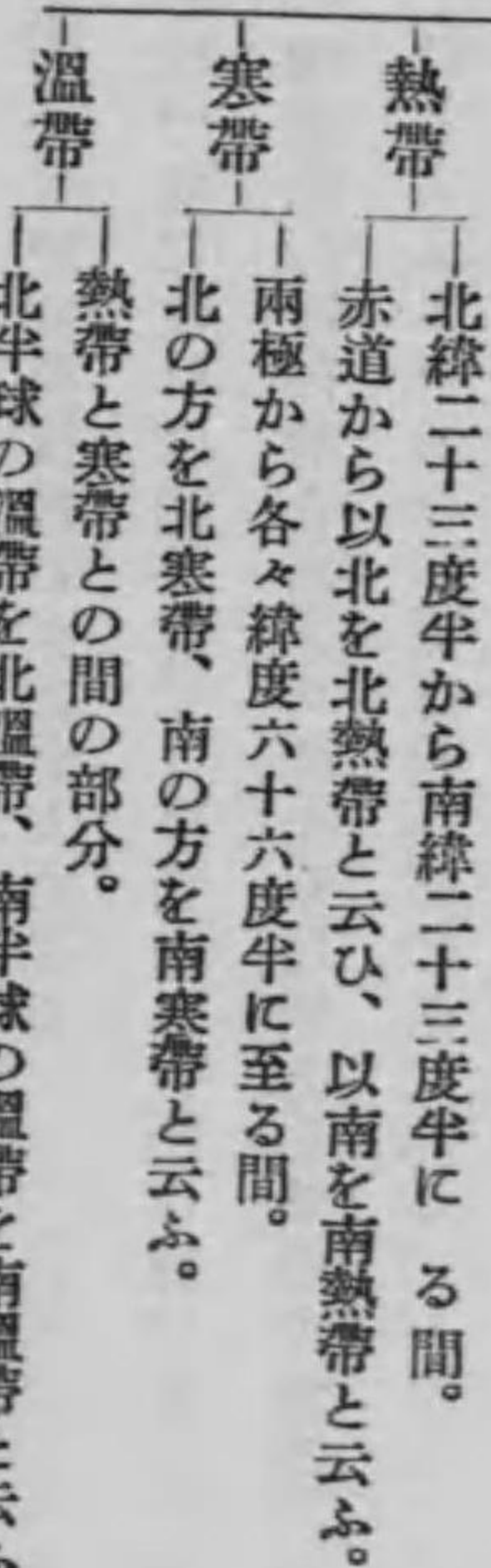
斯くて北半球で夏になれば南半球では冬となり、南半球で秋となれば北半球では春となると云ふ様に、一年の季節は赤道の北と南とは全く反對となるのである。例へば我が國の夏はオーストラリヤでは冬で、オーストラリヤの夏は我が國の冬である。

(5) 氣候帶

右の様に地球上の氣候は同一の所でも、各季節に随つて寒暑を異にするが、然し大體から觀て赤道附近は熱く、兩極に進むに伴れて次第に寒くなる事は云ふ迄もない。

そこで學問の上からは地球上の氣候を、太陽に照される工合によつて規則的に分けて、寒・温・熱の三帯として居る。

寒温熱三帯の分け方は？



熱帯地方は太陽に真上から照されるから一般に氣温が高くて年中暑く、寒帯地方は太陽の光りを甚だしく斜に受けて、一般に氣温が低くて寒さが強く、共に人間の生活地としては適當なところでない。

之に反して温帯地方は一般に氣温が温和で、人類の生活地としては最も都合のよい所である。而し氣温は單に太陽に照される工合によつて計りでなく、水陸分布の状態や海流などの影響を受けて非常に變化するものであるから、同じ緯度にある處でも甚だしく違ふ事がある。

現に歐羅巴洲の如きは氣候が緯度の高い割合に頗る温和で、夫れが歐洲今日の繁榮を招致した重要

な一因である事は前にも話した通りである。

(6) 陸地と海洋

地球の表面は高低が一樣でなく、其の高い處は陸地となり、低い所は水に蔽はれて海洋となれる事や、此の陸地を分けて六大洲とし、海洋を分けて三大洋とする事等は皆の既に學んで熟知する所である。

之等陸地と海洋の廣さの割合は三と七で、且陸地の大部分は北半球にある。

そして此の六大洲・三大洋に分れた地球の表面を舞臺として、現今約十六億の人類が住み、多くの國々を樹て、互ひに勢ひを競ふて居る其の現状を、今日迄の地理科でお話して來たのである。

各自は日本及び外國地理の大體については之で全く學び終へたのであるが、然し日本の國勢も世界の實狀も共に變化して止まないものであるから、將來も之が研究を怠らず、常に時勢を達觀する様な修養を續けてもらいたいと思ふ。

學習指導 地理教材の有機的統合 (尋常第六學年用) 終

大正拾五年拾壹月拾九日印刷

大正拾五年拾壹月廿貳日發行

地理教材の有機的統合(尋、六年)

定價金五圓五拾錢

著作者 栗原寅治郎

東京市神田區表神保町七番地

發行者 阪本眞三

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷者 寺井藤左衛門

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舍



發行所

東京市神田區表神保町七番地
振替貯金口座東京八七二番

大同館書店

大 同 館 發 行 書 目 錄

仲原善忠著 ■ 理法 日本地理原論及細說 全一冊 正價四圓八拾錢 送料十八錢	栗原寅治郎著 ■ 大日本國勢地理 全一冊 正價三圓八拾錢 送料十八錢	栗原寅治郎著 ■ 日本產業地理精說 全一冊 正價四圓 送料十八錢	栗原寅治郎著 ■ 郷土地理の研究 全一冊 正價五圓 送料十二錢	栗原寅治郎著 ■ 教材改造世界地理精說 全一冊 正價五圓八拾錢 送料十二錢	德重淺吉著 ■ 史眼 國史教授の原理實際 全二冊 正價四圓五拾錢 送料各十八錢	德重淺吉著 ■ 經濟的國史教授原義 全一冊 正價四圓 送料十二錢	栗山周一著 ■ 最近 歷史教育の革新論 全一冊 正價四圓八拾錢 送料十二錢
---	---	---	--	--	--	---	--

(文檢東史研究の必讀書)

岡部精一・高橋與惣共著 (從來の文檢受驗者は盡く本書に據れり)

文部省檢定 受驗用 大日本歴史

菊判 最上美本
紙數壹千餘頁
正價金 七圓五拾錢
送料卅六錢

拾版 本書は各種學校の國史科教授の參考に供し兼て文檢受驗準備に資せんが爲めに編纂せるものにして内
容は國史の本幹を形成せる事實を精細に通過し又古今史學家の發表せし新説の理據なるものは努めて
之れを採録せり。文檢受驗準備として第一回より最近に至る迄の文檢受驗問題の發題なるものは努めて
究探せり。又各章に附して、各章の要旨を簡明に解説し、各章の重要史實を精選し、餘蘊なき最も完備せる國史參考書たるべく
編纂せり。是れは新學校に於ては、第一の要書と爲るべし。
文部省檢定 試驗委員 中村久四郎氏序 高橋與惣著 (大日本歴史の姉妹篇)

文部省檢定 受驗用 東洋通史

菊判 最上美本
全壹冊 七百餘頁
正價金 五圓八拾錢
送料廿七錢

八版

著者多年苦心に成れる

最新最詳の東洋史出現

本書は現今中學校の教授細目を宣適に配合して四編六拾五章に分ち著者多年の實地的經驗を基礎とせ
る獨創の排案に據り上下五千餘年に亘れる諸民族の盛衰興亡より政治・風俗・學術・文藝・宗教・制度とせ
一切を網羅し東洋史實を盡く有機的連絡の下に最も平易正確懇切に通過せり。從來の東洋史の最
大缺點たる記述の無味乾燥及び繁雜に過ぎず簡易に失せる缺點。地名人名の東洋史の最
著者多年苦心に成れる。著者の第一の目的は、讀者の理解を補助し、外古今東西史學家の披瀝せる學說の理據なるものは努めて
努めて之を採録し、一々出所を明示して、研究者の便に資せり。又文檢受驗用の名を冠すと雖も、一切の
題に一大秘庫を提示せり。要するに本書は、文檢受驗用の名を冠すと雖も、一切の
史實を通過せるは勿論、古來日交兩國の關係は、文檢受驗用の名を冠すと雖も、一切の
を詳説したれば、密に教授參考書たるのみならず、史學研究者の世の讀者も亦座右に備へて大に便益なかるべからず。

東京市神田區 大 同 館 發 行 振替貯金口座 東京八七番 表神保町七番地

來出著名大ニの備必者究研

美學專攻宮本幸惠氏新著 (極彩色圖十八葉入) 最新刊

彩色の研究と其取扱法

(各學校圖書科必備書) 從來我國には彩色に關する著書が乏しいのは實に遺憾である(各工藝家必備の要書) 本書は多年の研究と實驗から最も根本的に最も實際的に色のある之に依て藝術家も教育家も教育者も商工業者も其の如何人も自分の職業教育或は商賣に自由に應用する事が出来る。殊に挿入してある多數の色圖・調和表・實驗圖解は如何なる素人と雖も一見して彩色のグラウンダーを會得し衣食住或は眞善美の各方面に容易く結び着ける事が出来る。 (近來珍らしき名著)

國文專攻福永弘志氏新著 (小説童話の源) 最新刊

竹取物語新釋

(四六判最上製本全一冊三百頁 正價金壹圓參拾錢 送料十二錢)
本書は竹の中から生れ出た「かぐや姫」に據まる戀物語である燕の子安貝・羽衣の條に至つては讀者を愕然として妙境に酔はしむるの筆致である小説の源を求むる人・童話に親しむ人・上代の世相を知りたき人・文學に志す人等は勿論國文研究者が必ず一度は味はねばならぬ書である本書は之を原文に親切なる註解を附し純口語譯を添へたるものである廣く滿天下の人々に一讀をすべし

東京市神田區 表保町七番地 ■ 大同館發行 ■ 東京 八番 貯金 七番 金庫 座番

實際經驗者が保証し最も信頼し得る 大同館發行の文檢參考書

(修身科教育科用書)

修身教育學說辭典 甲斐一二著 參圓六拾錢 送料十八錢	支那哲學史講話 宇野哲人著 貳圓八拾錢 送料十八錢
心理學講義 教育學術會著 四圓八拾錢 送料十七錢	支那哲學の研究 宇野哲人著 貳圓八拾錢 送料十八錢
教育學講義 教育學術會著 參圓五拾錢 送料十八錢	二程子の哲學 宇野哲人著 正價金貳圓 送料十二錢
教育學講義 教育學術會著 參圓八拾錢 送料十八錢	四書講義 大學 宇野哲人著 貳圓參拾錢 送料十八錢
教育學講義 教育學術會著 參圓八拾錢 送料十八錢	四書講義 中庸 宇野哲人著 貳圓八拾錢 送料十八錢
教育史 渡部政盛著 六圓八拾錢 送料十七錢	文檢論 語講義 教育學術會著 貳圓八拾錢 送料十八錢
教育學概論 渡部政盛著 五圓七拾錢 送料十七錢	文檢四書研究 教育學術會著 正價金貳圓 送料十八錢
改造教育思潮批判 渡部政盛著 貳圓五拾錢 送料十二錢	文檢修身科問題詳解 文檢研究會著 貳圓五拾錢 送料十八錢
最新教育學說の敘述及批判 渡部政盛著 參圓八拾錢 送料十八錢	教育の基礎たる哲學 市川一郎詳 貳圓五拾錢 送料十二錢
最新哲學辭典 渡部政盛著 五圓八拾錢 送料十七錢	教育の基礎たる社會學 市川一郎編 正價金貳圓 送料十二錢

教育哲學の研究 稻毛詛風著 四圓五拾錢 送料十八錢

教育者のための哲學 稻毛詛風著 四圓五拾錢 送料十八錢

創造本位の教育觀 稻毛詛風著 四圓八拾錢 送料廿七錢

現代教育の主潮 稻毛詛風著 四圓八拾錢 送料十八錢

哲學入門 門稻毛詛風著 壹圓六拾錢 送料十二錢

カント哲學批判 大關増次郎著 正價金貳圓 送料十二錢

西洋哲學史講義 高橋敬視著 參圓八拾錢 送料十八錢

最新認識論講義 市川一郎著 壹圓五拾錢 送料十二錢

自我論 紀平正美著 貳圓參拾錢 送料十八錢

改訂人格の力紀 平正美著 壹圓八拾錢 送料十二錢

倫理學序論 金子幹太譯 貳圓五拾錢 送料十二錢

（研究入門の指針書）

文 法制經濟問題詳解 吉本俊二著 正價金貳圓 送料十二錢

文 法制經濟研究の爲に 吉本俊二著 壹圓八拾錢 送料十二錢

文 習字科研究の爲に 笠井義夫著 貳圓五拾錢 送料十八錢

文 英語科研究の爲に 伊東勇太郎著 正價金貳圓 送料十二錢

文 國語科研究の爲に 石川 誠著 貳圓八拾錢 送料十八錢

文 漢文科研究の爲に 石川 誠著 正價金參圓 送料十八錢

文 生理衛生研究の爲に 鈴木忠庸著 貳圓五拾錢 送料十八錢

文 西洋史研究の爲に 山上徳信著 近 刊

文 圖畫科研究の爲に 小堺宇一著 貳圓五拾錢 送料十八錢

文 各教科受験者の手引 文檢研究会著 參圓五拾錢 送料十八錢

小檢より獨學研究者の爲に 山田耕著 壹圓八拾錢 送料十二錢

（國語漢文科用書）

源氏物語活釋 前篇 小林榮子著 四圓八拾錢 送料十八錢

源氏物語活釋 後篇 小林榮子著 四圓八拾錢 送料十八錢

源氏物語大意 尾上登良子著 正價金參圓 送料十八錢

萬葉集 古今和歌集 選釋 石川 誠著 正價金參圓 送料十八錢

新徒然草講義 石川 誠著 貳圓五拾錢 送料十八錢

太平記 新釋 石田吉貞著 貳圓五拾錢 送料十八錢

頭大鏡 活釋 小林榮子著 貳圓五拾錢 送料十八錢

古事記 新釋 植松 安著 貳圓五拾錢 送料十八錢

紀記の歌の新釋 植松 安著 正價金貳圓 送料十二錢

竹取物語 新釋 福永弘志著 參圓參拾錢 送料十二錢

蓬窪物語 新釋 吉村重徳著 近 刊

現代文學 新選 石川 誠著 四圓八拾錢 送料十八錢

現代詩歌 新選 石川 誠編 貳圓八拾錢 送料十八錢

伊勢物語 新釋 小林榮子著 近 刊

現代田園文學 新選 古屋利之著 正價金貳圓 送料十二錢

芭蕉翁の一生 小林一郎著 貳圓八拾錢 送料十八錢

芭蕉句集 評釋 小林一郎著 貳圓八拾錢 送料十八錢

芭奥の細道 評釋 小林一郎著 壹圓參拾錢 送料十二錢

芭七部集 連句評釋 小林一郎著 參圓八拾錢 送料十八錢

近松世話 淨瑠璃集成 小林榮子著 參圓八拾錢 送料十八錢

近松時代 淨瑠璃集成 小林榮子著 五圓八拾錢 送料廿七錢

新體國語法精說 小林好日著 貳圓八拾錢 送料十八錢

國文法の解義と練習 石田吉貞著 正價未定 送料十八錢

檢文 國語科研究者の爲に 石川 誠著 送料十八錢

檢文 漢文科研究者の爲に 石川 誠著 正價金參圓 送料十八錢

漢文^{白文訓讀} 研究要訣 吉波彦作著 正價金參圓 送料十八錢

受檢 新撰漢文要義 高木 武著 壹圓八拾錢 送料十二錢

檢文 國語漢文科問題詳解 龍澤良芳著 貳圓五拾錢 送料十二錢

四書講義 大學 宇野哲人著 貳圓參拾錢 送料十八錢

四書講義 中庸 宇野哲人著 貳圓八拾錢 送料十八錢

受檢 論語 解義 教育學術會著 貳圓八拾錢 送料十八錢

受檢 四書 研究 教育學術會著 正價金貳圓 送料十二錢

受檢 左傳 選釋 龍澤良芳著 參圓八拾錢 送料十八錢

支那哲學史講話 宇野哲人著 貳圓八拾錢 送料十八錢

支那哲學の研究 宇野哲人著 貳圓八拾錢 送料十八錢

（國民道德・教育大意教科用書）

受檢 國民道德要領 明治教育社著 貳圓五拾錢 送料十八錢

受檢 教育大意 明治教育社著 貳圓五拾錢 送料十八錢

受檢 教育勅語解義 教育學術會著 正價金貳圓 送料十二錢

國民道德要領講義 三浦藤作著 貳圓八拾錢 送料十八錢

教育大意講義^{教育史} 三浦藤作著 正價金參圓 送料十八錢

文檢 國民道德問題解答 教育學術會著 壹圓八拾錢 送料十二錢

（歷史地理科用書）

受檢 大日本歷史 高橋與惣一著 七圓五拾錢 送料廿七錢

受檢 東洋通史 中村久四郎 共著 五圓八拾錢 送料廿七錢

受檢 西洋通史 上卷 小林 博著 六圓八拾錢 送料廿七錢

受檢 西洋通史 下卷 小林 博著 四圓八拾錢 送料十八錢

讀史餘論 新井白石著 正價金貳圓 送料十二錢

古事記新釋 植松 安著 貳圓五拾錢 送料十八錢

頭大鏡活釋 小林榮子著 貳圓五拾錢 送料十八錢

足利十五代史 國史研究會著 近 刊

德川時代通史 井原 儀著 近 刊

史眼 國史教授の原理^{實德重淺吉著} 正價金八圓 送料廿七錢

文化史的 國史教授の要訣^{富山周一著} 五圓八拾錢 送料十八錢

改造世界地理精說 栗原寅次郎著 五圓八拾錢 送料廿七錢

大日本地理精說 上卷 栗原寅次郎著 五圓八拾錢 送料廿七錢

大日本地理精說 下卷 栗原寅次郎著 五圓八拾錢 送料廿七錢

日本產業地理精說 栗原寅次郎著 正價金四圓 送料十八錢

大日本國勢地理精說 栗原寅次郎著 參圓八拾錢 送料十八錢

鄉土地理の研究 栗原寅次郎著 正價金貳圓 送料十八錢

地理學習便覽 三村信男著 壹圓八拾錢 送料拾二錢

地理學通論^{地文學部} 三村信男著 六圓八拾錢 送料廿七錢

地理學通論^{人文學部} 三村信男著 六圓八拾錢 送料廿七錢

理法 日本地理原論及細說 仲原善忠著 四圓八拾錢 送料廿七錢

地學 地熱の作用 井原 儀著 近 刊

經濟的國史教授原義 德重淺吉著 正價金貳圓 送料十八錢

◇文學博士 宇野哲人著 (參拾版)

支那哲學史講話

(菊判最上製美本 全壹册 四百頁) 正價金貳圓八拾錢送料十八錢
本書は上古より清末に至る迄の支那思想の概要を極めて平易に簡明に叙述して最もよく要領を盡くせるものなり。特に清朝に於ける學術思想の變遷が如何に暗々裡に革命を惹起するに至りしが支那の新人の思想は如何なる傾向を帯びるか著者の最も留意せし所にして從來世に行はれたる支那哲學史の缺陷は本書に依て補せられて遺憾なし本書は又附録として一々原文を掲げて直ちに堂奥を窺ふの便に供し亦著者の議論の根據あるを知らしむ。要するに本書は初學者にも専門家にも座右に缺くべからざる絶好の新著なり。

◇文學博士 宇野哲人著 (九版)

支那哲學の研究

(美本 六頁) 最上製 正價金貳圓八拾錢送料十八錢
本書は上は三代より下は近世に至り或は一代の思想を概論し或は特殊の問題を細叙し支那哲學に關する博士獨特の研究は殆んど此の書に網羅せらる支那哲學史講話を讀んで略ぼ大意に通ずるものは更に此書に就て斯學の堂奥に參せよ。

◇文學博士 宇野哲人著 (拾三版)

四書講義 大學

(菊判最上製美本 全壹册 三百頁) 正價金貳圓參拾錢送料十八錢
大學は儒教の目的を最善く組織的に叙述せるものなりとは著者の創唱する所此書は如上の見解によりて平易明晰に講述せるものにして冠するに大學要旨を以てし且つ附するに索引及之れと密接の關係ある幾多有益の研究を以てす苟も儒教の何物たるかを知らんと欲せば必ずや此書を経きて著者の圓熟せる講話を聞かざるべからず。

◇文學博士 宇野哲人著 (拾五版)

四書講義 中庸

(菊判最上製美本 全壹册 三百頁) 正價金貳圓八拾錢送料十八錢
儒教の目的は大學に備はり儒教の根本義は中庸に明かである。かくて中庸の二書は經となり緯となり互に相待つて儒教の真相を傳ふ。著者は如上の見解を以て先に大學講義を著はし今亦中庸講義を成す大學に由て既に儒教の目的を明かにせる大方の士は請ふ更に中庸に就いて儒教哲理の眞面目を了せよ。尙附録數篇は皆直接間接に中庸の意義を明かにするものである。

◇文學博士 紀平正美著 (拾九版)

自我論

(四六判最上製美本 全壹册 百餘頁) 正價金貳圓參拾錢 送料十八錢
本書「自我論」一観に全く自分の觀念論の上に立脚して組織したるものである。従て缺點も多からうと思ふが同時に又自分のものであるとの自信をも有つて居るのである。前編「自我の分析」に於ては出來得る限りの分析を試みた。廣義に於ける教育者或は人の上に立つ人には其方法上に多少の參考となるべきものと信する。後編「人格の價值」に於ては人格の意義と價值とを論理的に定めんと企てた。即ち理想の何ものたるかを論じて哲學宗教道德其他一般の人文現象の根柢となるべきものを定め以て現代人の趨くべき方向を示さんと計つた積りである。切に學者の批評を待つ。

◇文學博士 紀平正美著 (八版)

改訂 人格の力

(四六判最上製美本 全壹册 四百頁) 正價金壹圓八拾錢 送料十二錢
本書は先に出版せられしものを姉妹篇「自我論」の出來と同時に全部著者が新しく改訂して世に發表せられしものである。自我論を讀まれし人も又これから入つて自我論を讀まれる人も必ず御併讀あらんことを希ふ次第である。

◇小林一郎著 (七版)

芭蕉翁の一生

(四六判最上製美本 全壹册 六百餘頁) 金貳圓八拾錢 送料十八錢

芭蕉句集評釋

(四六判最上製美本 全壹册 四百餘頁) 金貳圓八拾錢 送料十八錢
其の生前に於ても死後に於ても芭蕉翁の如くに多くの崇拜者をもつて居る人は古今の詩人文士中に曾て例の無いことである。此の如き人の一生は何人も之を研究して見て大なる教訓を得べきものである。著者は俳諧の専門家では無いが翁の作を愛護すること既に三十年翁を讀む上に於ても一種の自信をもつて居る。隨て著者は此の書を現代各階級の人にすゝめて其の批判を得ることを熱望して居るのである。

◇小林一郎著 (八版)

芭蕉奥の細道評釋

(四六判最上製 美本 全壹册) 正價金壹圓五拾錢 送料十八錢
旅を以て生命とせる芭蕉翁が奥羽から北陸に亘る半歳の旅日記なり之れを讀む者は宛ら此の俳聖に伴ひて山水の間に放浪する感無き能はず芭蕉の集中無二の名篇たるのみならず此の類の文として東西古今一も比肩するものなし。

◇文學博士尾上八郎氏夫人
尾上登良子女史著 (八版)

頭源氏物語大意

(四六判最上美本 全壹册五百頁 正價金貳圓 送料十八錢)
國文の至寶と稱へられ乍も讀み味ふに骨の折れる爲に世に敬遠されたるは光源氏物語なりこの書は源氏の意を細かに噛みくだきて俗に翻し現代の讀者の頭腦に容易に消化せしむる様に工夫したるものなり大意とは云へ文情詞勢語氣なども原本の儘を傳へんと苦心したるものなれば語中の男女の面影を髣髴せしめて人物情景の活動等原本を讀むに異らず源氏物語の通俗本として最も成功したるものなり巻頭に挿入したる系圖並に年表は本書の參考としては勿論其他一般に源氏物語を研究する人にも唯一の極めて有益のものなり

◇石川 誠著 (最新刊)

新徒然草講義

(四六判最上美本 全壹册四百頁 正價金貳圓五拾錢 送料十八錢)
本書は文檢受験者及高等學校入學試験者の爲めに之れが最も研究に便利なる様に叙述せるものである類書中の白眉たる事は深く自信して疑はざる書なり

◇東京帝國大學植松 安著 (拾版)

古事記新釋

(四六判最上美本 全壹册五百餘頁 正價金貳圓五拾錢 送料十八錢)
難解なる古文を最も平易なる假名交り文に書き下し振假名を附し詳細なる語義と其索引を添ふ。著者が國民心理を基礎として神代と上古との風俗人情に下したる評論的文章は各段章に顯はれ大和民族發展の由來を明かにし國民歸嚮の中心を説く是れ本書の特長なり 界の日本東洋の日本我等の日本これをこの書に得よ
◇東京帝國大學植松 安著 (三版)

紀記の歌の新釋

(四六判最上美本 全壹册四百頁 正價金貳圓 送料十二錢)
古典の國民化これは私の大に望む所である先に「古事記新釋」を著したが今又こゝに紀記の歌のみに就いて書いて見た。古事記は文學日本紀は歴史といふ著者の見方であるがこの二書にあらはれた和歌は勿論上古以來の韻文である。本書にはもとより新論としては無いが只現代の一般人士が讀むには便宜であると思ふ。

◇福永弘志著 (最新刊)

竹取物語新釋

(四六判最上美本 全壹册二百頁 正價金貳圓五拾錢 送料十二錢)
本書は竹の中から生れ出た「かぐや姫」に揚る戀物語である。書中燕の子安貝・羽衣の條に至つてはその筆致讀者を愕然として妙境に酔はしむ。小説の源泉を求め人・童話に親しむ人・上代の世相を知りたき人・文學に志す人等すべての人の必ず一度は味はねばならぬ古文の名著である本書は原文に詳解を附し純口語譯を添へしものである。

◇龍澤良芳著 (三版)

文檢國語漢文科問題詳解

(四六判最上美本 全壹册五百頁 正價金貳圓五拾錢 送料十二錢)
本書は文檢國語漢文科の最近十數ヶ年の豫備・本試験の問題を解答したものである内容は著者が自己の経験より見て問題を解答するに附ても成文要點をつかむに苦心し簡にして要を得たつもりである文檢問題も大正九年以後は従前と方針を異にして居るから研究者は是非一應本書に依りて練習して置くのが合格の要訣であると思ふ。

◇石田吉貞著 (最新刊)

國文法の解義と練習

(四六判最上美本 全壹册四百餘頁 正價金貳圓 送料十二錢)
【文檢專檢必讀書】「少き記憶と多き練習」は文法研究の最終の出来ぬならぬ。應用問題のみ出る文法に練習問題を多くした参考書の出なかつたのは確かに一大缺陷であつた。本書はこの見地から解義は穩健と簡潔と、獨習者に対する親切とを主として練習問題は出来るだけ多くして一々解答をつけ特に文章解題等に力を用ひ附録として各種入學試験問題第一回以來最近までの文檢文法問題等をそへたものである異説の多い各種文法書の間には遂に實力を養はうとする人に必讀をすゝめる。

◇高木 武著 (四版)

受檢新撰漢文要義

(四六判最上美本 全壹册三百頁 正價金貳圓八拾錢 送料十二錢)
萬朝の批評！漢文全體の事を親切に解きあれば學徒の利便からざる可し必ずや學生諸君が机上の一大寶庫たるべし。

◇前田徳一氏著 (好評激甚)

少年の思想と生活

(袖珍形最上美本 全壹册五百頁 正價金壹圓八拾錢送料十二錢)

東京高師若溪會推獎評……大阪育英小學校訓導たる著者が受持の高等科男兒に課した作文を透して彼等の思想の生活を觀察評論したもの「六月半ばの日記」外二十篇を収む。著者が序にも言つてゐる通り斯の方面の具體的の調査とか研究と云ふたやうなものではない。従つて別段新しい發見もなければ讀後大した獲物もない。しかし非常に面白い本である。讀んでゐて中々あきない。課題の出し方も氣が利いてゐるし觀方にも自由な所が多いし叙述もキビ／＼してゐる、殊に隨所に挿入した兒童の作文は十五六歳の少年の作としては其の文はいづれも實にうまい。勿論先生の加筆もあらうが餘程速者なもので著者の教へ子に對する態度對父母對先生對世間の態度等に少々偏狹な點があり叙述にも幾分の難があるが吾人は著者の熱烈な兒童愛と斷えざるその健筆とを推賞したいと思ふ。近來の興味ある本である。

◇大久保龍氏著 (最新刊)

少年讀物白ばら公子

(四六判最上美本 全壹册三百頁 正價金壹圓八拾錢送料十二錢)

彼の小公子を讀んでもどことなく外國風が漂つてゐるのを惜しみ如何にもして日本の少年少女にしつくり合ひ日本の國情にびつたりとはまつた生きたる様なものと願ふた著者の動機がこの一篇となつたのである著者は之れを人の師と親と愛兒とに捧ぐ。

◇内田祐吉氏著 (苦心研究の書)

應用練習を主としたる尋常小學國語讀本試験問題

(菊判洋裝本 貳百卅四頁 正價金壹圓六拾錢送料十二錢)

中學校女學校 五六年受持の先生方へ告ぐ、教授上の參考書乃至練習問題提議の上に最も有價値なものである事信ずる國語讀本の準備書である本書を日常の教授にあつて是非利用して下さる事をお勧めします殊に生徒の學習經驗を考慮して野にも山にも本書一冊を懐にして指導と準備が出来る本書の特色を汲んで頂きたいのです。

◇稻毛詛風著 (拾壹版)

若き教育者の自覺と告白

(四六判最上製 全壹册四百頁 金壹圓八拾錢 送料十八錢)

著者一度教育界を去るや之れが謀反者と自稱す。而も斯界と小學教師の運命を思ふ一念切々の熱誠は遂に勃發して本書をなす。本書は正しく教育界に對する覺醒の警笛也。奮勵と慰安とを與ふる福音也。滿天下の有爲なる教育者に共鳴する閨々の衷情を披瀝せる者は本書也。氏が燃屏の烟眼は教育者の内生活と教育界の眞情とを決別して餘す所無く火の如き熱烈の言辭と花の如き多趣なる筆致とは人情の機微と學理の精到とを經緯して百花燎亂の觀を呈す小冊なれ共全卷一の空言なく熱誠の氣紙面に横溢充實す加ふるに多感にして自助の人たる氏が意氣あり趣味ある前半生は觀照眼と批判によりて瀾麗の筆致となり最大膽赤裸々に告白せらるる意義ある生活に生きたる者は本書を讀め、生と自己に自覺せんとする者は本書を讀め。教育者の眞價を知り權威を高めんとする者は速に本書を讀め。

◇稻毛詛風著 (七版)

青年教師の歩める道

(四六判最上製 全壹册五百頁 正價金貳圓 送料十八錢)

教育界の「謀反者」として斷然教職を放棄し刻苦勵精以て今日に到れる著者が教育者の生活と教育界の現状とを觀て感奮措く能はず遂に六年に亘れる教師生活の全部を披瀝したるものは本書也。多感にして俊銳なる青年田舎教師が暗澹たる家庭と荒涼たる社會の間にあつて如何に自己の眞實のために力爭苦悶懊惱したるか深刻にして赤裸々なる告白的叙述が如何に從來隠されたる人生の一斷面を簡明したるか有爲なる教育者は勿論苟くも眞實なる生活を求むるものは乞ふ來りて本書の展開せる嚴肅悲痛なる人生の事實し見よ。

◇稻毛詛風著 (再版)

現代教育の主流

(四六判最上製 全壹册五百頁 金貳圓八拾錢 送料十八錢)

本書は著者が創造主義の見地から最近の我教育界の新主義新學說新問題を具さに叙述し明快に批判する事に依て現代教育主流の眞相を闡明すると共に之れが活用の方途を示唆せるもので正しく現代教育界の絶好の指南車である。其他本書によれば最近數ヶ年の日本の教育思潮を一堂に了解し得る便宜あり。敢て新進有爲な教育者の一讀を要請する所以である。

◇渡部政盛著 (六版)

文檢 教育史

(菊判最上美本 全壹百九百頁 金六圓八拾錢 送料廿七錢)

本書は既刊教育史の一般的缺陷を補ひ併て文檢受驗者の好評倍たらしめん爲に著されたるものなり特色とする所は日本東洋西洋とも古代より現代に至るまで全部網羅したる事と系統的に簡單明瞭ならん事を努めたる事及從來問題として出でし事情に附ては特に詳細なる解説を試みたる外練習問題を挿入したる事等である其他受驗的に幾多の親切と技巧を凝らしたることは言ふまでもなし教育史の研究は本書一冊で十分合格し得べし。

◇渡部政盛監修・教育學術會著

文檢 教授學習法講義

(菊判最上美本 全壹册六百頁 定價金五圓 送料廿七錢)

教師中心で出た舊型の教授法はもういゝ加減棄てらるべきである。そして新時代の教授法はまさに學習本位に組織せられねばな

らない。文檢教育科に於ても近頃は學習本位の教授法の問題が頻りに出る而もこれに十分應答し得るやうな教授法は一冊もない。本書は之れが研究者の爲めに編述せるものであつて内容は平易明快よく要領を盡し受驗の立場から見ても一も忽せにせず文檢教授法の試験に合格し得るや否やは一に本書の精讀の可否にあると云ふても敢て過言で無い程の自信ある良書である切に受驗者におすめする。

◇甲斐一一一著 (最新刊)

修身教育要 學說辭典

(四六判最上美本 全壹册五百頁 金參圓六拾錢 送料十八錢)

本書は修身教育兩科の研究に志す人が研鑽の傍所要題目の要點を敏速に把握せらるゝの便に供せんが爲めに編纂したるものである故に本書の内容は教育史・心理學・論理學・教授法・管理法等は勿論特に關係深く重要と認められるものは哲學・社會學・文藝の方面にも及びたり尙特に最近の思潮に鑑み努めて新題目を逸せざらんことを努力したり。文檢受驗者小學校教員受驗準備者師範學校生等を初め教育科研究者の是非机上の寶典として一冊を供ふべき必備の良書である。

◇稻毛詛風著 (大好評)

教育哲學の研究

(菊判最上美本 五百參拾頁 金四圓五拾錢 送料廿七錢)

本書の内容は一方内外の代表的教育哲學書を忠實に紹介し嚴密に批判すると共に他方著者自身の教育哲學觀を系統的に叙述したものであるが故に此の一卷によつて教育哲學の一斑と著者の見解とを理會する事が出来る。教育と哲學との關係について疑惑を懐く者、哲學を教育上に活用せんとする者、教育哲學を研究せんとする者乃至眞に有爲な教育者たらんとする者は必ず一本を繰りて此の新學術の醍醐味を味はうべきである。

◇渡部政盛著 (拾參版)

現 改造的教育思潮批判

(四六判最上製 美本四百餘頁 金貳圓五拾錢 送料十八錢)

本書は滿天下の教育者の爲めに最近の教育思潮を詳細に紹介し加ふるに著者一流の深刻なる批判を以てしたるものである故に學者

◇稻毛詛風著 (拾五版)

教育者のための哲學

(四六判最上美本 全壹册五百頁 金貳圓五拾錢 送料十八錢)

は本書に依て現今改造的教育思潮の全體を知悉し得へく又同時にそれらの新思想の價值如何をも究めることが出来るのである。文檢受驗者及教育學研究者は本書を一讀せば最近時の教育思潮を會得して新時代の教育者たるの名と實とを完備し得べし。

◇教育者としての光と力と
凡そ教育者に廣大なる理想と確乎たる信念を與ふるものは哲學也。然るに遺憾なる哉、我が國の哲學者教育學者にしてこの點に努力するもの皆無に近し幸に多年哲學と教育學とを兼修し『教育哲學』の建設を以て一大使命とする著者はこの現状を痛歎するの餘り本書を公にして(一)哲學が特に教育者に必要な所以と(二)教育者に必要な哲學の概念と(三)教育哲學の意義及價值とを的確精細に闡明することに依つて上記の缺陷を根本的に匡救せんとす。教育者としての光と力とを獲んとする士は來れ。

◇稻毛詛風著 (五版)
哲學入門

(四六判最上製美本 全壹冊二百頁 金壹圓六拾錢 送料十二錢)
哲學の世紀が来た。何人と雖も哲學の理解なしには意義ある生活は不可能な時代が来た。然るに我國には萬人の要求に應ずべき哲學書がない。著者これを遺憾として深遠複雑な哲學を極めて簡明に叙述し何人も一讀直ちに哲學の一般を理解し得るやうにしたのが本書である。今や多年渴望せられた絶好の哲學入門が現れた。將來哲學を研究せんとする士は勿論現代人として意義ある生活を営まんとする士は學つて本書に就け。

◇高橋敬視著 (最新刊)
西洋哲學史講義

(菊判最上美本 全壹冊五百餘頁 金參圓八拾錢 送料十八錢)
古代哲學から最近現代までの西洋哲學史を組織的に簡潔平明を旨として初學の人にも容易に理解出来る様に叙述したのが本書である。一體哲學を知るには是非哲學史を讀まなければならぬ。如何なる哲學説でもそのみ單獨に讀んで理解出来るものではない。讀者は幸に本書による時は容易に一切の思想の源泉を汲み取ることが出来るであらう。

◇大關増次郎譯著 (五版)
カント哲學批判

(四六判最上美本 全壹冊三百五十頁 正價金貳圓 送料十二錢)
哲學する時代は来た。思惟の思惟なくんば一切は其の原理を失ひ人生は其根柢なきに苦しまねばならぬ。哲學に於けるコペニクスの轉廻はこれをカントに見る。カント哲學の洗禮を受けずして眞に哲學する事が可能であらうか。カントより新理想主義へ新理想主義からヘーゲルへの道を辿らうとする者は先づ近世哲學の權威フイツシャーのカント哲學批判を傾聴するの有意義なるは敢て贅言を要しない。これ眞實なる思惟に生きんとする士に本書をすすむる所以なり。

◇大關増次郎著 (三版)
カント研究

(菊判最上美本 全壹冊二百頁 金七圓八拾錢 送料卅六錢)
大阪毎日新聞批評：…批判哲學の創開者として近世哲學史上に巨木の如く聳へ立つカントの哲學の體系をその思惟開展の順序に従ひ考究検索したものである。近代思想のこゝろが或はカントを批判し或はカントを祖述しなものは無いのであるから近代思想を極めるものは必ずカントまでさかのぼらなければならぬ。本書はそのカントに達するよき手引書である。哲學研究者必讀の力を入つた著述である。

◇東京女子師範學校訓導 守屋貫秀・奈良島知堂共著

新刊 **少年會我物語**

四六判最上製美本 寫真十數葉入 正價金壹圓八拾錢 送料十八錢

内容目次

金石の悲しみ… 祐經の無念… 祐親狙はる… 奥野狩場の酒宴… 河津保野の相撲… 赤澤山の露 兄弟も會我へ… 哀れな千鶴… 頼朝の擧兵… 鎌倉の朝業… 雲居の願… 想めしの使者… 景季の命乞… 由比ヶ濱邊… 重忠の申請ひ… 母の狂喜… 敵に對面… 箱王の元服… 母の勸氣… 應病な京の小治郎… 淺間將… 母しの者討取れ… 哀れな鹿の聲… 與一の立腹… 和田酒宴と草摺引… 小袖乞… 勸氣赦免… 懐しい故郷の春… 矢立の杉… 箱根にて暇乞… 富士の狩場の勇ましき… 無念の射掛じ… 敵を前に亂拍子… 和田義盛… 主従の袂別… 嬉しや本望成就… 十番斬… 十郎祐成の討死… 女妾の五郎丸… 御前にての尋問… 五郎時政が最後…

守屋貫秀
山口友吉共著
久米慧典

少年國史辭典

(新刊) 四六判最上美本 正價金貳圓 送料十八錢

少年少女必讀書
學校圖書館必備書!!

少年少女諸君が祖國發展の事蹟日本歴史を自ら學ばうとするにはどうしても「國史辭典」がなければならぬ。本書はそれが要求に應ぜん爲め編纂せるものである。本書を座右にして勉強せんか如何なる事跡も解し得ることなし、本書は實に少年少女諸君の爲めには勉學自習上の眞に一大寶庫である。

東京市神田區 大田館發行 振替貯金口座 東京七八七番

(録目書圖行發館同大)

吉田絃二郎著 小説集 島の秋 (七版)

四六判 最上美本

金壹圓八拾錢 送料十二錢

短編 島の秋 別れ行く人々 落葉の風 眠る人の息 土堤店の夜の道 雪の夜の道 二つの道 磯

私は冷たい理智や、批判や、狭いイデオロギの上から人生を取り扱はないで、できるならば嬰兒のやうな謙虚な心で、この幽玄な人生の底深くはいつて行つて見たいと思ふ。私は解剖刀を持つ科学者の眼で人生を見ないで、直観の境に於いて自然と融合する詩人の心を持つて人生を見たい。この心から出發して静觀した私の人生は、いつも死と悲哀と流轉の相を背景として刹那より無限に暗い一路を辿つてゐるものであつた。私はこの觀照の底に映つた心影を、さながらに私の貧しい收穫の中に取り容れやうと試みた。

吉田絃二郎著 小説 感想 生命の微光 (三拾版)

四六判 最上美本

正價金貳圓 送料十八錢

小説と感想 (想感と説小) されど生くべし 秋 一 人 蜩 小僧 梅人の母 謀叛人の死 感想卅餘篇

「力は孤獨から生れる！」この人生の見方は非常に淋しい。けれども涙ぐましいほど懐しい生活の力を私に與へた。兄弟を捨てて友を捨ててあらゆる人々を捨てて我れた一人、人生の悠久な寂寞と運命の廣野に孤獨の影を見出した時私達の哲人生活の第一歩が始まるのである。光りなき絶望の底から光りが生れ、愛なき嫁人者の臆病な心の底から温かい人間愛が生れるのである。私はこの心削り生活者の收穫の中から創作五篇と卅餘篇の感想を纏めることにした暗の底に徘徊せる孤獨者のいのちの微光をもとむるかすかな祈りの聲として

吉田絃二郎著 感想集 心より心へ (廿三版)

四六判 最上美本

金壹圓八拾錢 送料十八錢

奈良女子高等師範學校訓導 櫻井祐男氏新著

忽六版

生を教育に求めず

四六判 最上製美本 全壹册 六百餘頁 正價金 貳圓八拾錢 送料十八錢

著者曰く私はよほどの眞摯と敬禮を以つてこの書を私の同伴の士たる天下無量の青年教育家諸君に捧げたいと思ふ。主人公飲一は人生の激進さに悶えながらも尙ほ己が生の尊美と優越に深き固き信據と信念を有ち教育を以て己が人生 生活と思新し其生活的顯現の爲に日夜の赤誠を致さうとしてゐる。而かもそこに總てを捨て、總てを獲ようとする矛盾撞着のたゞ中に仁王立ちに奮激してゐる彼が性格の強さ弱さが思れるであらう。その強さ弱さから来る彼が生の懊惱と約略は解決のまゝに未決は未解決のまゝに必ずや讀者諸君の人生の上に何等かの示唆と感奮を齎すであらう。ことを疑はない。

東京美術學校教授 白濱 徵序 宮本幸恵氏新著

最新刊

行誥つた現代の圖書教育

四六判 最上美本 全壹册 四百頁 正價金 貳圓參拾錢 送料十八錢

最近の文化―生活―教育。就中圖書教育を以て最も「行誥れり」と言ふ。自由畫の脅威クシヨシ 耽溺・藝術教育・標榜も吾人は何物を得たか走馬燈の如き現時圖書科の動搖反覆多岐紛糾新説異論に迎送齟齬せらるゝ吾人の繁忙さ實に渾沌たる此一大渦運動は果して行誥れりや否や、永遠確固たる普遍的妥當の眞理的根本的圖書科の理想の「現實化生活化」こそは吾人の今や均しく渴望する當面の問題である此書に依つてのみ只解明せられる秘密である。

東京市神田區 大田行發館 表神保町七番地 東京市神田區 大田行發館 表神保町七番地

超・群書の中白眉としてみすむ

お待兼の大同館發行國史實際用教授書出來!!

◆栗山周一・富山正義共著◆

(初版忽ち賣切再版)

新文化 高等小學國史教授の要訣

菊判最上製美本
全冊七百頁
正價金
五圓八拾錢
送料十八錢

新制定高等國史現るゝや、その解説的著述は随分澤山に出版せられた。然し何れも機を争ひ勝利を目的としなないものはない。殊に杜撰なる叙述に依て書き纏つたやうなものも随分ある様子である。著者栗山氏は歴史教育の理論家として更には歴史教授の文學法の提唱者として新界既に充知の事であり富山氏は新しき教育實驗場たる兒童の村小學校の開導としてその豊富な材料を實際的方面に活躍せしめて居る。如斯理論的方面にも實際的取扱にも十分なる研究と努力の結果生れたものであるが故に本書は蓋し教材解説の豊富な點に於て記述の親切なる點に於て更に史料の正確なる點に於て群書中の白眉である敢て一本を薦む。

(内容目次) 第一章緒論：第二章歴史教育論：(歴史の教育的意義：新教科書の批判及取
扱) 第三章教授法：(目的：教材：教授細目及教案：教授の實際：歴史教授と年代
の振興：第五朝鮮半島の服と文物の傳來：佛教の渡來と美術工藝の發達：第七支那との交通：第八大化の改新：第
九東北地方の開拓と朝鮮半島の離反：第十律令の判定：第十一奈良時代の學藝風俗：第十二奈良時代の佛教：第十三
平安時代初期の發展：第十四藤原氏の專權：第十五朝臣の榮華と文化：第十六武士の興起：第十七院政武士の勢威：第
十八平氏氏の顯赫：第十九鎌倉幕府の創設：第二十北條氏の民政：第二十一元寇：第二十二鎌倉時代の文化：第二十三北條
氏の滅亡：第二十四建武中興：第二十五吉野朝廷：第二十六室町時代の盛時：第二十七關東管領：第二十八室町幕府の衰微：第
二十九室町時代の文化：第三十京都の繁榮：第三十一戰國時代の大勢：第三十二徳川時代の海外渡航西洋人の渡來：以上

東京市神田區 表保町七番地 ■ 大同館發行 ■ 東京市神田區 表保町七番地

◆數學教授の基礎は教育者が明瞭なる數理の理會者たるべき事である

◆千葉女子師範學校教諭 大井全平氏著◆ 上巻發賣

算術教授資料の根本的研究

(菊判最上製美本五百頁・正價金參圓八拾錢・送料十八錢)

最新刊 數學教授革新の烽火揚げられ形式主義より實質主義に分科主義より融合主義に
進み來りたる時算術教授に於て此傾向は著しきものあり著者はこの新傾向に鑑
み多年中等教育界に從事せし経験 算術教材を實社會的より 根底的に研究調査を進め
る基礎とし數年間の苦心を重ねて 算術教材を實社會的より 根底的に研究調査を進め
たるのみならず更に數學教授の基礎は教育者が明瞭なる數理の理會者たるべき事を要する點より
數理的の研究も亦等閑に附せずして之を徹底的に行ひたる本邦最初の著書也
小學校・中學校・女學校・實業學校・農學校・工業學校其他各學校には必ず一冊は圖書課に置くべき
書である教育者諸君が實地教授の好資料として常に座右に備ふべき近來の良書たるを信ず。

岡 千賀衛著 ● 珠算教授法精義 (四版) 正價金四圓五拾錢 送料金十圓八錢

内藤 孫一著 ● プロジエクト 依れる算術教授 (版五) 正價金十圓二錢 送料金十圓二錢

東京市神田區 表保町七番地 ■ 大同館發行 ■ 東京市神田區 表保町七番地

（文檢西洋史受驗者必讀書）

中等學校教授用資料と檢定受驗用とを兼備せる唯一の西洋史參考書

小林博氏新著（多年苦心の大著愈完成發賣）

新刊 文部省檢定 西洋通史 受驗用

西洋史研究は本書に十分なり

（菊判最上製美本）（上卷）正價金六圓八拾錢 送料廿七錢
（全二冊箱入千五百頁）（下卷）正價金四圓八拾錢 送料十八錢

- （一）教授用の便
文部省教授細目と箕作・村川・瀨川・大類・磯田・齊藤・清・峰岸・齊藤一の各博士教授の著せる中等學校西洋史教科書を參照し其項目の敷衍につとめ且説話筆記等の取扱にも苦心したり。
- （二）受驗の實經驗
文檢受驗は著者の苦き實經驗に鑑み選擇配列に頗る苦心して表解圖點を施し極めて多き參考史話を載せ其の興味を以て讀者の倦怠を防ぎたり。故に本書は項目體にして見易く時間を省き副裡に千萬の史實を牢託せしむるは信じて疑はず。
- （三）記事の詳密
著者は多年の西洋史研究と共に翻譯の史實を本書に發表しツタンカーメン王の事蹟よりドリス案日露交渉の最近に及び繁簡の要を得たれども尙記事頗る詳密にして多大の頁を費し從來の文檢問題の如きは自ら悉く織込まれたり。
- （四）文檢問題解答
本書は卷末に索引を附して讀者研究の便を計り既往の文檢問題は四十一回迄列記し一々之に解答を附したり。

東京市神田區 大田館發行 表神保町七番地 振替貯金口座 東京七八七番

263.6
113

終

